

資料①：平成 25 年度 第 3 回会議の議事録

平成 26 年 5 月

南城市

1. 実証運行の利用状況と評価・今後の課題について

委員	事務局
<p>現在は、65歳以上に制限して無償実験が行われているが、資料には有償実験になると65歳以上など利用者の制限が難しくなると記載されている。有償実験でさらに主婦や学生が利用することで、民業圧迫なるが、どのように考えているのか。</p>	<p>有償でも、行政が直接運営すると利用者の制限はできるが、民間に委託すると制限が難しくなる。実験を通して民間への影響を見極めていきたい。</p>
<p>協議会に諮って運行計画を検討することで、年齢など利用者の制限なども可能か確認する。</p>	<p>—</p>
<p>1便あたり2人以下がほとんどであり、この程度乗りようであればタクシーで良いのではないか。有償実験で公募により新規事業者が参入されると既存のバス/タクシー事業者は、余計に厳しくなる。実証実験を踏まえて、バス・タクシーを活用できるような方策が必要ではないか。</p>	<p>民間の交通事業者と連携してすすめていきたいと考えている。委託先も1社のみでなく、複数の事業者に委託できないか交通会議で検討したいと考えている。</p>
<p>登録者数が行政区ごとで差があるのはなぜか。登録者数が伸びれば利用者も伸びると思うが、登録者・利用者を伸ばすための検討が必要ではないか。</p>	<p>民生委員や区長が積極的に取り組んでいるところの登録が多くなっている。4月に総会が予定されており、その場でさらなる登録を促したい。また、バス停まで行かないと利用できないなど間違った情報も伝えられており、正しい情報を周知する必要もある。</p>

2. 平成 26 年度の進め方について

委員	事務局
有償実験などのタイムスケジュールは具体的に何月を想定しているのか	次の交通会議を 4 月末から 5 月、計画案を 5 月から 6 月頃、公募を 6 月から 7 月頃に実施、7 月には契約を行い、秋頃には有償での実験を開始予定としている。
有償実験までは、無償実験を続けるのか。余計にお客さんがデマンドに流れてしまう。有償にしてお客さんが少なくなると、民間委託での運営が難しいのではないかと。	有償実験の運営は民間事業者に丸投げするのではなく、市も運営費用を負担する。
バス・タクシー、デマンドを含めて、どのように交通弱者の移動手段を確保するのが重要である。デマンドが利用されたのは不便な所という結果が出ている。レンタカーも確かに増えているが、格安航空運賃で学生の旅行が増えているのも事実。免許は持っていないのでレンタカーには乗れない、そういった新たなニーズに対してどうするか議論が必要である。デマンドだけではなく、南城市・南部全体の交通をどういうふうにしていくのか議論があっても良いのでは。その中で各々の役割を考えることが重要である。	